

1. 全国国立大学生涯学習系センター研究協議会

2004年11月26日(金)メルパルクOkinawaにて、第26回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会が開催され、当センターからは専任教員山本珠美が出席しました(当番校:琉球大学生涯学習教育研究センター)。

当日は琉球大学長盛田孟進氏の挨拶、文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課長桑原靖氏による大学の生涯学習への取り組みの現状についての説明の後、協議事項として(1)公開講座の今後の発展方向と課題、(2)学習ニーズの把握とその活用について、意見が交わされました。その後、東北大学大学院教育学研究科教授大桃敏行氏による特別講演「大学の管理システムと開放事業—日米比較分析—」では、コロラド大学の事例を中心に大学開放事業の紹介がありました。なお、協議会修了後は交流会が開かれました。

国立大学の独立行政法人化に伴い、学内他事業と同様公開講座も見直しの機運が高まっているという認識は共通に見られましたが、話題の中心となっていた受講料および公開講座担当教員へのインセンティブに関しては、各センターの対応が大きく三分されているのが現状です。受講料については「大幅に引き下げる大学」「設定に自由度を持たせる大学」「現状維持の大学」に、また担当教員へのインセンティブについては「公開講座事業は本務とみなし報酬は廃止した大学」「新しいインセンティブを実施中または検討中の大学」「現状維持の大学」です。香川大学では、今年度、研究費獲得型のパイロット・プロジェクト公開講座を実施したことはすでにNewsletterの中でもお知らせしている通りですが、文科省課長の説明の中では先進的試みとしてご紹介頂き、また協議会また交流会中、他大学の出席者から多くの質問を受けることとなりました。

新たな試みですので、今後様々な問題が出てくるかもしれません。しかし、他大学のモデルとなるよう、積極的に事業展開を図っていきたいと考えておりますので、学内教職員の皆様方にはぜひともご協力下さいますよう、改めてお願い申し上げます。

2. NPO研究フォーラム

2005年1月6日(木)読売新聞高松総局6階大会議室にて、非営利団体ジャパン・ソサエティーでの勤務経験を持ち、現在はハーバード大学ジョン・F・ケネディー行政大学院修士課程在学中の渡邊裕子氏を迎えて、NPO研究フォーラム「NPOの理論と実践:アメリカからの報告」を開催しました(主催:香川県ボランティア・NPO研修連携協議会、共催:香川県/香川大学生涯学習教育研究センター/特定非営利活動法人香川ボランティア・NPOネットワーク)。同フォーラムは、当センター専任教員による平成16年度香川大学萌芽研究「市民活動を支える生涯学習教育研究センターの役割に関する研究」(代表者:山本珠美)との関連で実施したものです。

当日は前半90分で渡邊氏による実務経験と大学院で教えられている理論的枠組みとの両者を踏まえた上での基調講演がなされ、後半90分では会場参加者(31名)を交えて熱心なディスカッションが行われました。



センター雑感

・本センターの学内的位置づけを考えて3年が過ぎようとしています。本学教職員との精神的な距離を縮められるような仕事をしていけば、大学の地域貢献の姿も実態に即したものとなるのではないかと思うようになりました。そのためのアクションを起こしつつありますので、今後ともよろしく願いいたします。(清國)